

11月のエコ活動



(株)関根工務店

茨城県/エコ事業所 AAA

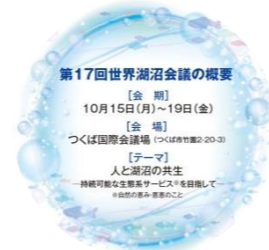
未来に残す茨城の資源-湖沼-

第17世界湖沼会議(10月15日~19日)茨城県で開催されました!

湖や沼を取り巻く環境問題について、世界各国の研究者や市民、行政担当者などが一堂に会し情報の交換や、相互の交流を図る場です。

昭和59年に滋賀県で始まり、おおむね2年ごとに世界各国で開催されています。

今回、茨城で開催されたこともあり、取り上げました。



日本第2位の面積を有する霞ヶ浦。茨城県全体の約1/3の流域面積を占める湖。



水質:昭和30年代は比較的きれいな水でしたが、昭和40年代後半から流域における人口増、生活様式の多様化産業活動の進展などに伴い水質の汚濁が進行。現在は様々な水質浄化への取り組みが行われていますが、改善はされているものの、近年は目標が達成されないまま水質の値はほぼ横ばいで推移している。

濁沼は周囲約22km、面積9.35km²:関東地方で唯一の汽水湖。

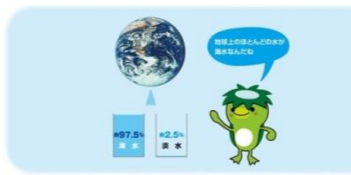
満潮時には川が逆流し、濁沼に海水が流れ込むため、濁沼は海水と淡水が混じる汽水となります。



県では、濁沼の水質保全を図り、次世代に継承するため、水質目標と総合的な水質保全対策を定めた濁沼水質保全計画に基づき、様々な対策を進めています。

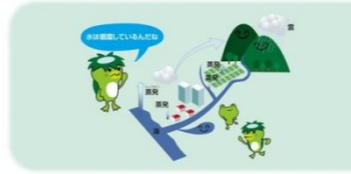
未来に資源を残せるように、環境を守るための工夫をしていきたいですね。

身近にある自然環境に目をむけてみるのも大切です。



水はすべての生き物にとって大切な生命の源。

体の約70%は、水分。10%の水分がなくなると体調が悪くなり、20%の水分がなくなると命に危険をおよぼします。



生き物には、きれいな川や湖が必要です。

きれいな水をよごさないためのくふう



みずやりふくなどをつけて、こまめに水がながれないようにする。ソースやマヨネーズをつかったら、のこったよごれはあらい流す。真水のこしをながしにすてない。



あるでは、シャンプーなどをつめていすぎない。



トイレには、どけいティッシュや紙おむつをながさない。



せんたくでは、せんぼいのしように水をまらる。



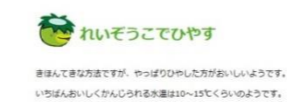
天ぷらなどにつかったあぶらは、ふきとるか、かためて生ごみとしてする。

きれいな水を汚さないための工夫。

浄水場のしくみ。



水道水をさらにおいしく



お風呂の水をためて、洗濯機やトイレに使う。いちばんおいしくかんじられる水温は10~15度くらいです。



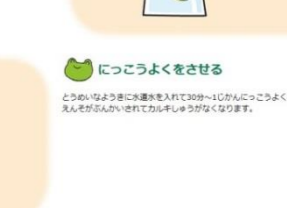
くみおきする

大きなゴミはゴミ箱に入れて、小さなゴミは洗面器や洗面器で、よりおいしくお風呂です。ただし、洗面器がなくなるとお風呂が汚れるので、掃除機で掃除機をかけるようにしてください。



レモンを入れる

レモン汁などを入れてお風呂です。お風呂の水をきれいにするためにレモン汁を入れることでスッキリとしたお風呂になります。



しゃぶつする

お風呂の水をためてお風呂です。しゃぶつしたお風呂の水をためてお風呂です。しゃぶつしたお風呂の水をためてお風呂です。

緑化運動進行中

